会報 大ケ谷戸こだなか

発行責任者
大ケ谷戸小田中町会長
志村　勝
編集　町会広報部
印刷　㈲中溝グラフィック

わたしたちの地域を考える（座談会）

―21世紀・地域社会における町会の役割と使命―

町会長―格調高いテーマを掲げましたが、二十一世紀を迎え、町会として、どんな事業に取り組み、どのように変えてゆくか。先輩の方々の輝かしい業績をふまえて、それぞれの立場から率直なご意見や問題など話し合ってほしい。

斉藤副会長―町会は、市・県勢だよりをはじめ役所の下請的な仕事が年々増えている。

役所が行政として自治会にさしのべてくれることより協力してほしいという方が多い。この分だと町会の仕事に参加する人が少くなってしまう。

斉藤会計―本会計と盆踊り、祭礼の会計は統一してはという意見もあるが、やはり分かりやすい点からいっても別会計の方がよい。臨時の大きな支出がなければ安定している。

小林すみれ会会長―市から補助をもらうため市の組織に入ったが、月一回の会合、多摩川の清掃など行事が多い。広報の原稿書きも負担になる。旅行は十七名参加。楽しかった。

青木青少年指導員―町会には婦人部・子供会・すみれ会などそれぞれの会があるが、町会の活性化が必要だ。町会として、今何が一番重要かを考え、三役が中心となって町会を組織していけば、みんながついてくる。

原保護司―当町会は昭和二八年頃組織され、大ヶ谷の中では最も歴史のある町会だ。町会の役員がリーダーとして率先すればみながついてくる。

大塚子供会副会長―子供たちが少くなり、親の多くは働いている。役員も十年以上変わらない。役員もどんどん変わっていき、何か行事がある時手伝ってもらいたいのだが。

斉藤婦人部長―婦人部は町会のお手伝いが多い。他の団体に参加しつながりをもつことはよいことだ。ただ多くの方は趣味やスポーツなど個人の活動に参加しているので、なかなか行事に参加してくれない。回覧版などで知らせるのだが、やはり口こみがよい。

志村民生委員―民生委員は、地域内の見まわり、ネットワークが必要。そして年よりの方などの現状に対応したい。それには、民生委員だけでは対応できないので町会の役員さんと話しあい「見まわりネットワーク」の体制づくりをしたい。また三部と四部の人口が、ふえているので、今の部は関係なく区域を検討したい。

◇座談会に出席された方。

会長――志村　勝
一部副会長――斉藤　喜由
二部副会長――長谷川　昭
三部副会長――天野　一夫
四部副会長――小林　幸悦
会計――斉藤　春夫
民生委員――志村　時治
青少年指導委員――青木　友義
〃――工藤由美雄
保護司――原　湧男
婦人部長――斉藤　美代
子供会副会長――大塚　俊治

◇その他話題になったこと

1．町内会館の運営について
○会館の管理運営をしていただいている、長谷川副会長に感謝したい。
○町会の方々が気楽に使用できるようPRしていく。

2．町会の部の再検討
○新しい道路が出来ると町会が分断されるので編成がえが、必要かも知れない。
○町会で検討委員会をつくって検討していきたい。

3．祭りについて。

4．町会に、中学生、高校生、青年の参加をうながし、将来に備える。

子ども会の活動

子供会会長　渡辺　信夫

日頃は小田中子供会の活動に対しまして、ご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

これ迄の子供会の活動についてご紹介させていただきます。

（当子供会主催の行事）

●【夏季行事・ラジオ体操】七月二十二日～二十八日迄各部の会場において、N・H・Kの朝六時半からの放送に合わせて実施。

（参加者約八十名）

●【夏季行事・プール開放】七月二十四日～二十九日迄大谷戸小学校のプール開放に伴い子供たちの参加。

●【第三十二回運動会】七月二十三日恒例の運動会を大谷戸小学校に於いて開催いたしました。例年は五月に開催の予定でしたが、町会との行事の日程が折り合わず、七月の実施となりました。競技種目は学校では実施されない、幼児向けの宝探し・父母向けにはパン食い競争等を取り入れております。特にパン食い競争は父母等には大変好評でした。

＝＝反省点＝＝

夏の暑さの中での実施ということで、不評を買い、又役員の方達にも大変ご苦労を掛けたことに対し反省とし、今後は町会の行事と事前調整行い気候のよい五月頃に今後は実施をしたい。

●【第二十七回餅つき大会】十二月三日町会事務所前において、多くのご来賓方達の参加と、多くの子供たちの参加、天候にも恵まれて楽しい一時を過すことができました。

初めての餅つきにとまどいの子供たち

（町会主催の行事協賛）

☆盆踊り大会の協賛

子供会は、盆踊りを盛り上げるために模擬店を実施し協力いたしました。

模擬店を実施するに当たり事前の打合せ・北部市場への買い出しと役員・野球部の監督・コーチの皆さんの努力と天候に恵まれ成功いたしました。

☆関神社祭礼の協賛

九月十五日祭礼の子供の山車・子供神輿巡行に子供たち及び父兄の参加により、天候には恵まれませんでしたが、事故もなく巡行いたしました。

♪大戸『友遊ラリー』の参加♪

十一月二十六日大戸地区子供育成会主催による友遊ラリーが等々力緑地で開催され、クイズとゲームをタイムと得点を競い順位を決めるラリー。

「友遊ラリー」の開会式を楽しむ子供たち

当町会からは残念ながら野球部だけの参加でしたが、約三百五十人の中で当町会から二チームが入賞いたしました。

◎子供会からのお願い◎

今迄に幾つかの行事を実施してまいりましたが、子供たちの参加が昨今減少しております。子供会の行事に対しご理解を頂き子供たちの参加に父兄のご協力をお願いいたします。

小田中野球部の紹介

～子供会の部活動～

★子供会少年野球部の紹介★

当町会には小学生を対象とした少年野球チームがあるのをご存知ですか。

チームのニックネームこそありませんが、その名もズバリ「大谷戸小田中野球部」として昭和三十年に創部され、四五年間の歴史を持ち、しかもこの間一度も休部することなく、中原区での優勝十回、川崎市大会等への出場十一回（内三位迄の入賞三回）実績を残す伝統ある野球部です。

公式戦は中原区子ども会連盟主催の春・夏・秋の大会を中心に、大戸地区少年野球連盟（現在九チーム）のリーグ戦及びライオンズ杯争奪戦、それに市大会などを含めて一番多かった十年度を例に取りますと年間三十一試合も戦っています。

最近での好成績としては十年度に中原区で春・夏・秋と三連覇を達成しましたし、十一年度もこれに近い成績を挙げています。

過去の思い出の中でダイクマカップに出場、朝五時半にレンタルマイクロバス他車四台を連ね、津久井郡の野球場でのこと。負けて元々のはずが二回戦も突破し、スタッフ親子共々狂喜の状態、慌てて明日のバス借り上げ延長を現場から申込んだ。

三回戦では惜しくも負けたがチーム全体が一丸となり大人も子供も涙・涙でしたが非常によい思い出となりました。

日頃の活動としては試合日以外はほとんど多摩川グランドで終日練習をしています。ただし子供会行事には必ず参加するほか、野球部独自のイベントとして春は高尾山ハイキング・夏はバーベキュー大会・冬はクリスマス大会を毎年行っています。

スタッフは徳江監督他コーチ十一名、部員は現在三十五名ですが少子化の折り、部員募集に苦労しております。

モットーは勝つ喜びを与えるための厳しい練習、そして厳しい躾の指導及び健全育成です。

野球部　広報担当